

中国から中央アジアの寒波について

1. 概況

1月30日発表の「全球異常気象監視速報」に示したように、中国から中央アジアでは異常低温となり、アフガニスタンや中国などで寒波や大雪による被害が伝えられている。

2. 異常低温(寒波)の状況

1月23日から29日までの7日間平均気温は、中国から中央アジアにかけての広い範囲で平年より6℃以上低くなった(図1)。

ウズベキスタンでは、12月下旬から気温が平年より10℃以上下回るような日が繰り返し現れた(図2)。アフガニスタンでは大雪や寒波による多数の死者が伝えられた。

中国では1月半ば頃から低温となり(図2)、西部から南部で異常低温(30年かそれ以上に1回の低温)となった。中国南部のチョンチン(重慶)市では、30日までの気象通報データによる1月の月平均気温が約2.3℃で平年より2.8℃低く、1977年以來の低温となる可能性が高い。

また、中国中部・南部では、月半ば頃から雪や雨の降る日が続き(図2)、異常多雨(雪)となったところもあった。同地域では広い範囲で大雪による死者や交通・ライフラインの障害などの被害が伝えられた。

こうした異常気象の要因として、ロシア西部からシベリアにかけての偏西風の蛇行により、シベリア高気圧が平年より強まって広い範囲で寒気が南下したことが考えられ、異常多雨(雪)に関しては、南シナ海周辺の亜熱帯高気圧が平年より強く、その西縁を回って暖かく湿った風が入ったことも要因と考えられる(図3、図4)。

[この件に関する連絡先：気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課
03-3212-8341 内線3157]

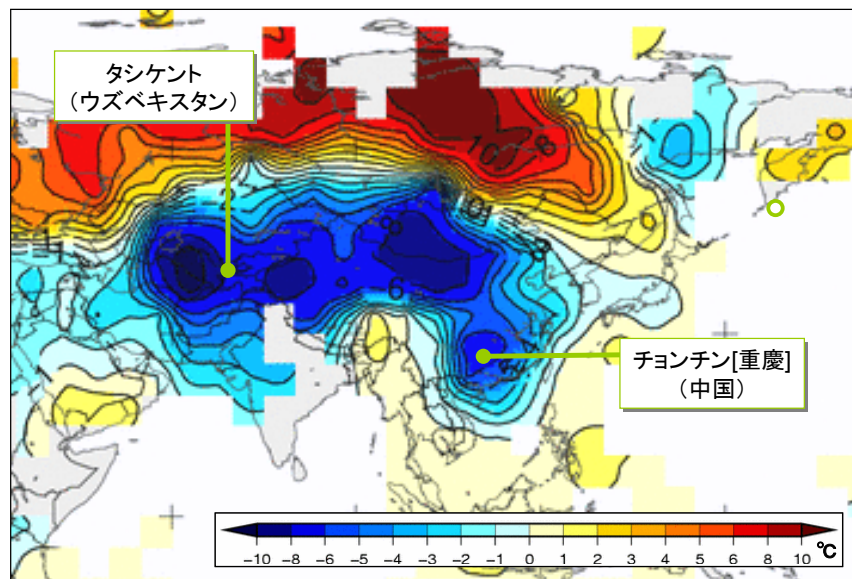


図1 7日間平均気温平年差(平成20年1月23~29日)
各国の気象機関からの地上気象通報データによる。

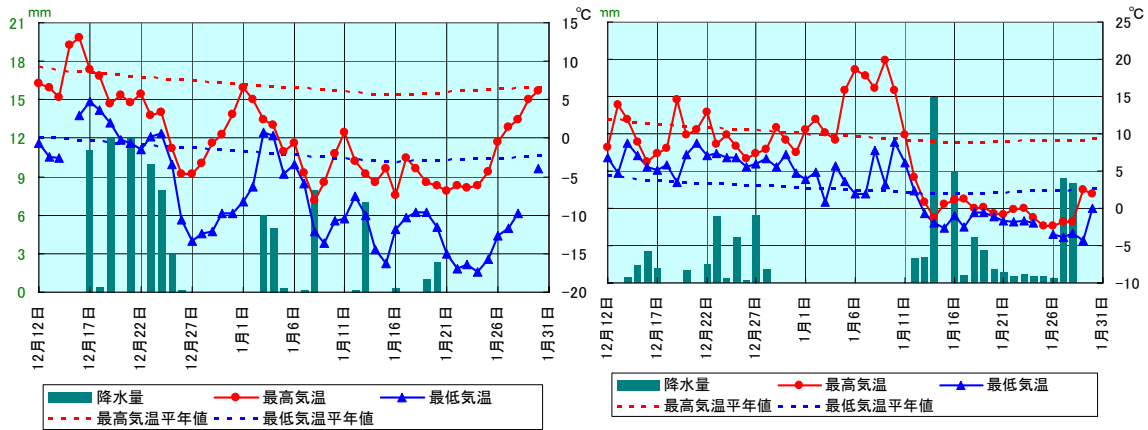


図2 各地の気象経過図

左：タシケント（ウズベキスタン）、右：チョンチン[重慶]（中国南部）

赤い折れ線が日最高気温、青い折れ線が日最低気温、細い破線はそれぞれの平年値を示す。棒グラフは日降水量。実況値は各国からの気象通報データによる。

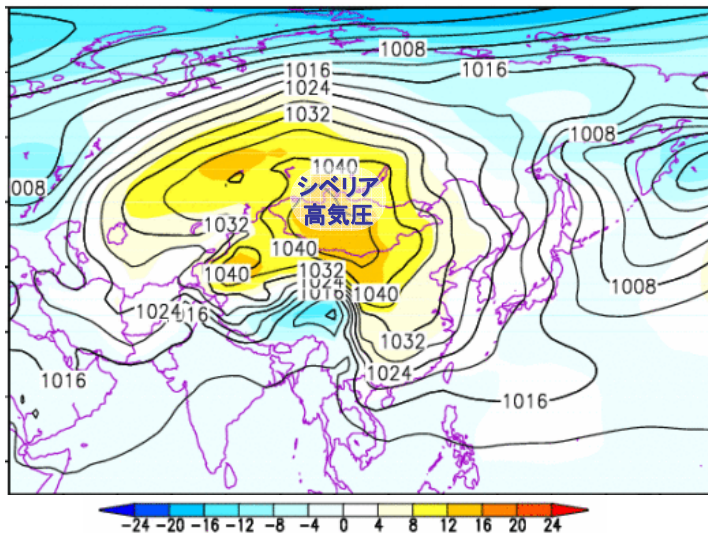


図3 7日間平均天気図（平成20年1月23～29日平均）

実線は7日間平均の海面更正気圧で、色の陰影はその平年差。シベリア高気圧は中心部で平年より12hPa以上強く、中央アジアと中国に張り出している。

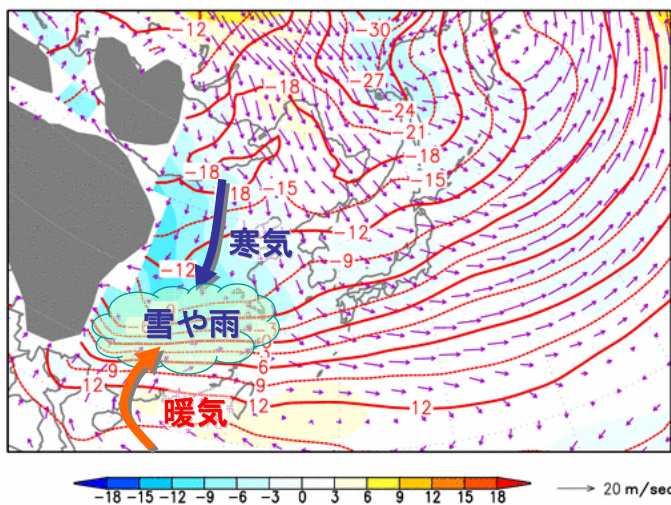


図4 7日間平均天気図（平成20年1月23～29日平均）

実線は上空約1500m（850hPa面）の7日間平均気温で、色の陰影はその平年差。紫色の小さい矢印は風向・風速。

中国中部・南部の上空では、シベリア方面からの寒気が入り、気温が平年より6～9℃低くなっている。